平成23年7月23日(土)2时限施行(90分)

数学 A 4 試験問題

栗原 将人

2011年 春学期

1.(1) 連立方程式

$$\begin{cases} x + 3y + 2z = 4 \\ -2x + y + 5z = -6 \\ x + y - z = 3 \end{cases}$$

をクラメールの公式で解け。

(2) 上の連立方程式を行基本変形で解け。

(3)
$$A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & 2 \\ -2 & 1 & 5 \\ 1 & 1 & -1 \end{pmatrix}$$
 とおく。 A の逆行列を求めよ (答だけでよい)。

(4)
$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ -6 \\ 3 \end{pmatrix}$$
, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 4 \\ s \end{pmatrix}$, $\mathbf{c} = \begin{pmatrix} -3 \\ 4 \\ 1 \end{pmatrix}$ とおく。 \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} が線型従属 となるように s の値を定めよ。

(5) 原点を通り、ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} を含むような平面を S と書く。A に対応 する一次変換

$$\left(\begin{array}{c} X\\Y\\Z\end{array}\right) = A\left(\begin{array}{c} x\\y\\z\end{array}\right)$$

により、Sに移るような平面の方程式を求めよ。

[裏に続く]

2.
$$A = \begin{pmatrix} k+1 & 0 & 0 & 1 \\ -1 & k-1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & k & 1 \\ -1 & 0 & k & k-1 \end{pmatrix}$$
 $\succeq \sharp \mathrel{\stackrel{>}{\sim}} \mathrel{\stackrel{>}{\sim}} \mathrel{\stackrel{>}{\sim}}$

- (1) A の行列式を求めよ。
- (2) A の階数 (rank) を k の値で分類することにより求めよ。
- (3) k を定数とする連立方程式

$$\begin{cases} (k+1)x + w = 0\\ -x + (k-1)y + z = 0\\ x + kz + w = 0\\ -x + kz + (k-1)w = 0 \end{cases}$$

の解の自由度をkの値で分類することにより求めよ(答のみでよい)。

- (4) (3) で求めた解の自由度が正であるようなすべての k に対して、(3) の連立方程式の解全体が \mathbb{R}^4 の中でなす部分空間の基底を、それぞれの k に対して求めよ。
- **3.** \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} を n 次元空間 \mathbb{R}^n の一次独立なベクトルであるとする。このとき、 \mathbf{a} , \mathbf{a} + \mathbf{b} , \mathbf{a} + \mathbf{b} + \mathbf{c} は一次独立であるか否か判定せよ。

[以上

At 2016

$$X = \frac{1}{3} = \frac{1}{3} = -\frac{1}{3} = -\frac{1}{3} = \frac{1}{3} = -\frac{1}{3} = \frac{1}{3} = \frac{1}{3}$$

$$\begin{pmatrix} 4 \\ -6 \\ 3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 4 \\ -75 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$= \overline{\mathbb{P}} \overline{\mathbb{D}} S = \overline{\mathbb{D}} S =$$

⇒ 法線かいしいりとする。

h-a=h-b=h-c=h-0=0 f1)

まって下面にこりまとはりもてきこの、

Step2, SinFBEENS.

18(x+36+22)+13(-2x+4+52)+2(x+4-2)=0

-6x+69y+114z=0

TEXCTES TOX-55Y-131Z=0 1=43 3. a,b,c-次独立なので la+mb+nc*O.である。(l=m=n=Oでない) a,a+ba+b+C,が二次独立ではなら ×a+y(a+b)+Z(a+b+c)=O となるの以外の解文,y,Zが存在する (x+y+Z)a+(y+Z)b+ZC=O これは x+y+Z=l. y+Z=m, Z=nとすると、 la+mb+nc+のなので矛盾 よっての,a+b,a+b+Cは一次独立